

184.院内発症の高血糖症患者の病態を解明するための後ろ向き観察研究

研究の概要

入院中の患者さんにおいて、高血糖症は患者さんの病態を悪化させるため、その予防が重要です。しかし、入院中の患者さんにおいては、様々な治療や入院中の患者さんの病態そのものが高血糖症を誘発することがあります。今回の研究では、入院中に発症した高血糖症の患者において、その誘因と考えられる因子を調査します。本研究により、高血糖症の発症要因がわかれば、入院中の患者さんにおける高血糖症の発症を予防することに繋がり、重要であると思われれます。

研究の目的と方法

本研究では、2016年4月1日～2023年3月31日に国立病院機構熊本医療センターで入院治療を受けた患者さんを対象としています。日常診療で得られたデータを電子カルテから集計いたします。

本研究の参加について

本研究により患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

調査する内容

本研究は、新たに試料・情報を取得することではなく、既存のカルテデータ（年齢、性別、検査値、治療状況、合併症・転帰など）を用いて実施する研究です。研究対象者（患者さん）の個人情報（氏名、住所、電話番号）は記載せず、個人情報は特定されません。

調査期間

研究期間：倫理審査許可日～2026年3月31日（調査対象期間:2016年4月1日～2023年3月31日）

研究成果の発表

研究成果については、学会、論文などでの発表を予定しています。

研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 糖尿病内分泌内科 西川武志

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 糖尿病内分泌内科 西川武志

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 糖尿病内分泌内科 西川武志 電話 096-353-6501